

遠くへ、高くへ。

その一歩が、命を守る



「何が起こるのか」をイメージすることが大切

03 津波から避難

10分後～

遠くへ、高くへ



原則として徒歩で避難する
より遠く、より高い場所へ避難する
危険な道路や建物を避ける
警報解除まで安全な場所にいる

02 揺れがおさまったら

3～5分後

周囲を確認して避難する



家族や周囲の安全を確認する
火元を確認する
津波のおそれがあれば避難
荷物を取りに戻らない

01 地震発生直後

地震発生

まずは身を守る



落下物から頭を守る
机の下などに身を隠す
あわてて外へ出ない
揺れが収まるまで待つ

南海トラフ地震では、

激しい揺れに加え、大きな津波が発生するおそれがあります。

川越町では、早い地域で地震発生から30分以内に浸水が始まることも想定され、揺れによる建物の倒壊や道路の損傷、停電などが起これば、避難に使える時間はさらに限られます。

沿岸部や川の近く、浸水のおそれがある場所にいるときは、強い揺れを感じたら、まず身の安全を確保し、揺れがおさまれば、避難を始めてください。津波警報等の発表や「まだ大丈夫」と様子を見たり、荷物を取りに戻ったりすることは、避難の遅れにつながります。

津波から身を守るために大切なのは、「より遠くへ、より高い場所へ」避難することです。車での避難は渋滞や事故につながるおそれがあるため、原則として徒歩で避難しましょう。

想定される被害を知ることから

三重県は12年ぶりに、南海トラフ地震の被害想定を見直しました。今回公表されたのは、発生する可能性は低いものの、理論上起こり得る最大クラスの地震が発生した場合に、県内で想定される被害です。地震は、いつ起こるかを予測できません。いざというときに自分や家族の命を守るため、備えておくことが大切です。川越町で想定される被害を確認し、「その時」に備えましょう。

津波から命を守るカギは「すぐ避難」

南海トラフ地震では、被害が最も大きくなる条件の場合、県内で津波による死者が約4万1千人、川越町では約600人に及ぶと推計されています。これは、冬の深夜に地震が発生し、多くの人が就寝中で、すぐに避難を始められない状況を想定したものです。

一方で、地震の後、すぐに避難を開始すれば、津波による犠牲者を大幅に減らせることも示されています。強い揺れを感じたときや津波警報等が発表されたときは、様子を見たり、家に荷物を取りに戻ったりせず、ためらわずに避難してください。

命を守るために、まずは「すぐ避難」。これが何より大切です。

川越町に迫る「3つの危機」

①震度6強の激しい揺れ

家具の転倒や建物・ブロック塀の倒壊、ガラスの飛散などが起こるおそれがあります。住宅の耐震化や家具の固定を進め、地震発生時はまず身を守る行動を取りましょう。

②道を奪う液状化

町の広い範囲で液状化が起こり、道路のひび割れや沈下、建物の傾きなどにより、普段の避難経路が使えなくなること考えられます。避難先までの道は、一つだけでなく複数確認しておきましょう。

③迫る津波

早い地域では、地震発生から30分以内に浸水が始まるおそれがあります。強い揺れがおさまったら、警報等を待ち続けたり荷物を取りに戻ったりせず、浸水のおそれがある場所から速やかに避難してください。

日頃の備えが、命を守る

避難先・避難経路の確認、住宅や家具の安全対策、非常持出品の準備、災害情報を受け取る手段の確保など、日頃の備えが「その時」の行動を支えます。

次のページでは、今日からできる具体的な備えを紹介します。